

廃炉・汚染水対策ニュースレター

【内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所からのお知らせ】

福島第一原発の廃炉・汚染水対策を担う人々の声をご紹介します。

■1ページ

- ・凍土壁掘削作業 現場監督として
- ・東京電力からのメッセージ

■2ページ

- ・二重の堰を築き、汚染水を外に漏らさない
- ・現地事務所職員から

凍土壁掘削作業 現場監督として

～原子炉建屋を凍土壁で囲み、汚染水の流入を抑制します～

当社は凍土壁の掘削作業を担う協力会社ですが、私は現場監督として作業員の管理や、他の業者との調整作業を行っています。現在、掘削作業は、熱中症にならないように夜間を中心に行っています。午後5時半から午後11時半まで現場での作業、午前1時からいわきの事務所で短時間業務を行った後、宿舎に戻ります。現場

では安全のため、防護服に加え特殊なベストも着用して作業しております。

地中には埋設物が多いため、慎重に作業を進めなければなりません。工期との関係もありますが、作業員には、焦らずに確実に作業を進めるようにと、声を掛けています。経験が大事な作業なので、作業員の方々には長く働いていただきたいと考えています。



ケミカルグラウト株式会社
総合基礎工事本部 岩盤工事部
主任 渋谷 齋志さん

東京電力からのメッセージ

～トラブルのない廃炉作業に向けて尽力します～

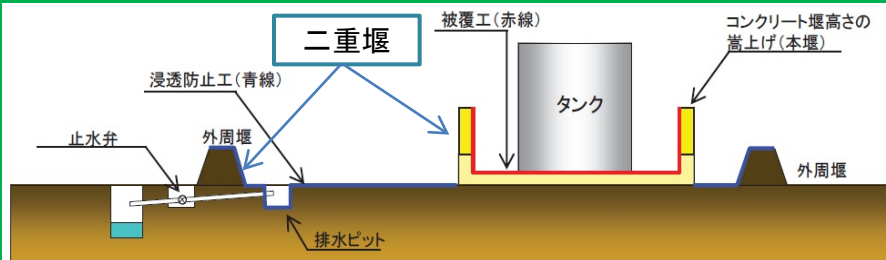
1号機から4号機の廃炉関係業務を統括管理しております。廃炉作業を工程通り、無事故無災害で仕上げるのが責務です。トラブルが報道される度に、住民の方々にはご心配をおかけしていることと思います。廃炉作業においても、特にトラブルを発生させないための対策作りに注力しているところです。これらのことを肝に銘じ、廃炉に向けて努力していきたいと思います。



東京電力株式会社
福島第一原子力発電所
ユニット所長 (廃炉技術統括)
白川 智章さん

せき 二重の堰を築き、汚染水を外に漏らさない

二重堰工事では、タンク周辺のコンクリート堰の高さを上げるとともに、その外周にさらに堰（外周堰）を設けています。また、2つの堰の内側は、地中に汚染水が浸透しないよう、舗装しています（被覆工、浸透防止工）。



出典：特定原子力施設監視・評価検討会汚染水対策検討ワーキンググループ(第11回)資料2 P22



株式会社安藤・間
東福島作業所
副所長 村片 陽太さん

Q1: お二人が携わった作業について教えてください。

村片さん: 汚染水を貯蔵するタンクエリアから汚染水の漏えいを防ぐ緊急対策工事の一環として、主に「二重堰」の建設工事を担当しました。

本間さん: 私は、協力会社の一員として村片さんの指揮のもと、地盤掘削などの現場監督を行いました。

Q2: 工事で苦労した点について教えてください。

本間さん: 現場が非常に狭く、重機ではなく手作業をせざるをえない場面もあり苦労しました。10㎡の広さを15、16人が1週間かけて手作業で掘削したこともありました。また、汚染水に触れぬよう、炎天下でも防護服と全面マスクの上にカップを着て、軍手とさらにゴム手袋を二重に重ねて作業せねばなりません。新規入場の作業員さんには、環境に慣れてもらうため、細心の注意を払い作業を進めてもらいました。



丸磯建設株式会社
関東支店土木部 工事課
本間 斉一さん

村片さん: 一人一人現場での声掛けを行い、お互いの知見を共有し、少しでも良い現場にできるよう改善することも心がけていました。担当した工事は非常に厳しい工期でしたが、作業員皆様の力で工期を守ることができたのではないかと考えております。

◆◆◆ 現地事務所職員から ◆◆◆

初めまして。原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム現地事務所長の野田です。

この時期、防護服とマスクを着用して現場に出ると、巡回を終える頃には汗だくです。しかし、もっと大変なのは、現場の作業員の方々です。防護服の上にカップや防火服を着て、ボーリングや溶接などの作業をしておられます。本当に頭の下がる思いです。

1Fの廃炉は困難かつ長期にわたる取組みです。廃炉が進むことが福島の復興につながることを肝に銘じて、日々の業務をしっかりと努めてまいります。



廃炉・汚染水対策現地事務所
所長 野田 耕一

発行 内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
住所：福島県双葉郡楢葉町大字山田岡美し森8-57 連絡先：0240-25-5780